

血液内科カリキュラム

I. 目的と特徴

血液の異常は、感染症、膠原病などの炎症性疾患、肝疾患、悪性腫瘍など多くの疾患に伴い、また薬剤の副作用としても頻度が高く、いかなる診療科にも関連がある最も身近で重要なものです。血液内科の研修では、徳島大学病院卒後研修プログラム中の経験すべき疾患のうち血液疾患の症状、病態、治療法を理解し、実行することを目的としています。

血液学の領域は、基礎研究や治療面で目覚ましい進歩を遂げています。その成果が、診断、治療成績の向上に直結し、今や再生不良性貧血や造血器悪性腫瘍など従来難治であった血液疾患の多くが、治癒出来るようになってきました。血液内科の研修では、最新の分子生物学的診断を基にした分化誘導療法や分子標的療法、抗体療法を代表とする免疫療法および造血幹細胞移植を用いた細胞療法など現代医療の最先端の治療にも参加することが出来ます。

II. 研修責任者

安倍 正博 准教授 (日本血液学会専門医、日本血液学会指導医)

III. 運営指導体制および指導医数

准教授 1 名、講師 1 名、助教 1 名、診療助教 2 名、医員 3 名。日本血液学会専門医は 6 名。研修医 1 名につき 1 人の指導医が選任され、入院患者の診療を共同で行います。指導医講習会の受講者数は 3 名です。

IV. 臨床実績

白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの造血器腫瘍、再生不良性貧血などの難治性造血障害や出血・凝固異常症を幅広く診療しています。特に、治療抵抗例となった多発性骨髄腫に対する新規治療薬の導入や、白血病・悪性リンパ腫に対する造血幹細胞移植などに積極的に取り組んでいます。また、徳島県内唯一の骨髄バンク認定施設でもあり、当科への移植目的の紹介患者数は年々増加傾向にあります。

V. 研修目標

血液内科研修では、本院卒後研修プログラム中の血液疾患で経験すべき症状・病態・疾患(◎)を満たすことを目標とします。また、2年目の選択科として選ばれた場合は、より専門的な知識・手技(○)を習得することを目標とします。

一般目標(GI0)：血液疾患の診断、治療に必要な基礎的知識と診療能力を修得する。

行動目標(SOB)：

1. ◎ 主要な血液疾患の病態を理解し、病歴をとることができる。
2. ◎ 理学的所見をとることができる。
 - 1) 貧血, 2) 出血傾向, 3) リンパ節腫大, 4) 肝・脾腫
3. 診断に必要な検査を計画し、それらの結果を正しく評価できる。
 - 1) ◎末梢血液検査
 - 2) ◎骨髄穿刺
 - 3) ◎凝固・線溶検査
 - 4) ○溶血検査
 - 5) ◎血漿蛋白検査
 - 6) ◎免疫血液学的検査(細胞表面抗原の解析を含む)
 - 7) ◎染色体検査
 - 8) ○分子生物学的検査(遺伝子, DNA 解析を含む)
 - 9) ◎画像検査(CT, MRI, ガリウムシンチ等)
 - 10) ◎輸血検査
4. ◎主要な血液疾患の診断ができ、治療計画を立案できる。
5. ○出血傾向の鑑別診断をして、適切な対応ができる。
6. ◎適切な成分輸血ができ、副作用に対処できる。
7. ○白血球減少時の感染症の予防と対策ができる(造血細胞移植を含む)。
8. ○抗腫瘍剤の投与方法、副作用の予防と対策に習熟する。
9. ◎悪性腫瘍患者などの中心静脈、輸液、栄養状態などの全身管理ができる。
10. ○家族を含め患者の社会的・心理的ケアを十分に行うことができる。

VI. 研修内容

造血障害、出血・凝固異常症や造血器腫瘍の症状、病態、治療法を理解し、一般診療に役立つ血液疾患の基礎的診察、診断技能ならびに薬物療法や輸血療法などの治療法を研修します。

指導医とともに主治医として患者に対して全身管理を行い、適切に治療計画を立案し、患者・家族に正しく情報を伝え、了解のうえで治療を行います。また、カンファレンスを通じ症例ごとの検査データの読み方・考え方を学び、骨髄穿刺や輸血療法など基本手技や全身管理法を習得します。

症例毎に疑問点を探求し、学術的に意義のある症例については積極的に学会発表・誌上発表を行います。

VII. 研修スケジュール

毎週火曜日回診前の pre-meeting と病棟総回診、木曜日午後の血液カンファレンスで全ての入院症例を検討します。移植症例に関しては、木曜日夕方に移植カンファレンス(血液内科・小児科合同)を行います。

VIII. 評価法

研修責任者と指導医が研修態度、症例提示、患者さん・家族・スタッフへの対応、知識・技術の習得度などを総合的に評価し、研修終了時にフィードバックをします。最終的評価はオンライン臨床研修評価システム（EPOC）を用いて行います。